個人と社会の
ウェルビーイングの
実現

子どもの学びをトコトン支える県民の会
第2回会議について

2025年9月17日(水)
長野県教育委員会事務局

子どもの学びをトコトン支える県民の会とは

課題意識：「教員の業務が多忙化しており、学校だけで解決できない課題も多い」

子どもの学びを
みんなで支える

行政、教育、学校、産業、大学、保護者等、多様な立場の関係者が一堂に会し、
学校現場の業務実態に係る意見交換を通して、
子どもの学びをみんなで支える機運を醸成するため、
「子どもの学びをトコトン支える県民の会」を開催しました。

実施したこと

【第1回】R7.7.3開催

①小中学校長によるプレゼンテーション
「学校現場の現状について」

②教員業務に係る討議
「学校・教師が担う業務に係る3分類」のうち、
「基本的には学校以外が担うべき業務」について、
どうしたら教員の手から離せるのか
（×やめてよい　△どちらとも言えない　○学校がやるべきだ）

③保護者対応に係る討議
学校は、保護者との関係性をどうつくっていけばよいか

③来校者の皆様への呼びかけ
来校者によるハラスメント防止ポスター（案）を検討

今回

【第2回】R7.9.3開催

①教員業務に係る討議
「学校・教師が担う業務に係る3分類」のうち、
「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」
「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」について、
どうしたら教員の負担を軽減できるのか

②来校者の皆様への呼びかけ
第1回会議の討議等を受けて表現を見直し。
一部来校者の”行き過ぎた行為”を遠慮頂きたい点に
ポイントを絞ったポスターを再提案し、了

③共同宣言
「一人ひとりの学びたいを叶えるため、先生が子どもと
向き合えるよう応援します」とする共同宣言を発出

＜参加団体＞
長野県市長会、長野県町村会、長野県警察本部、長野県市町村教育委員会連絡協議会、(公社)信濃教育会、長野県小学校長会、長野県中学校長会、
長野県特別支援学校校長会、長野県高等学校長会、私立中学高等学校協会、長野市立緑ヶ丘小学校、長野市立裾花中学校、(一社)長野県経営者協会、
長野県中小企業団体中央会、(一社)長野県商工会議所連合会、長野県商工会連合会、信州大学、松本大学、長野県PTA連合会、長野県高等学校PTA連合会、
長野県公民館運営協議会、(一財)長野県交通安全協会、長野県、長野県教育委員会、信州学び円卓会議

会議（後日の発信等も含む）で出た主な意見

保護者対応はチームで対応すべき。
外部化できる業務を検討すべき。

外部化したい業務には、予算措置してもそもそも担い手がいないケースもあるため、注意が必要

AIやオンライン等のツール活用等の他、専門人材の活用も有効

県と市町村、教育委員会と他分野、連携した対応が求められる。

教師が子どもと直接関わる時間を確保し、子どもたちと向き合い、話を聞き、一緒に遊ぶことができる環境づくりが必要と認識した。これは学校だけでなく社会全体の問題だ。

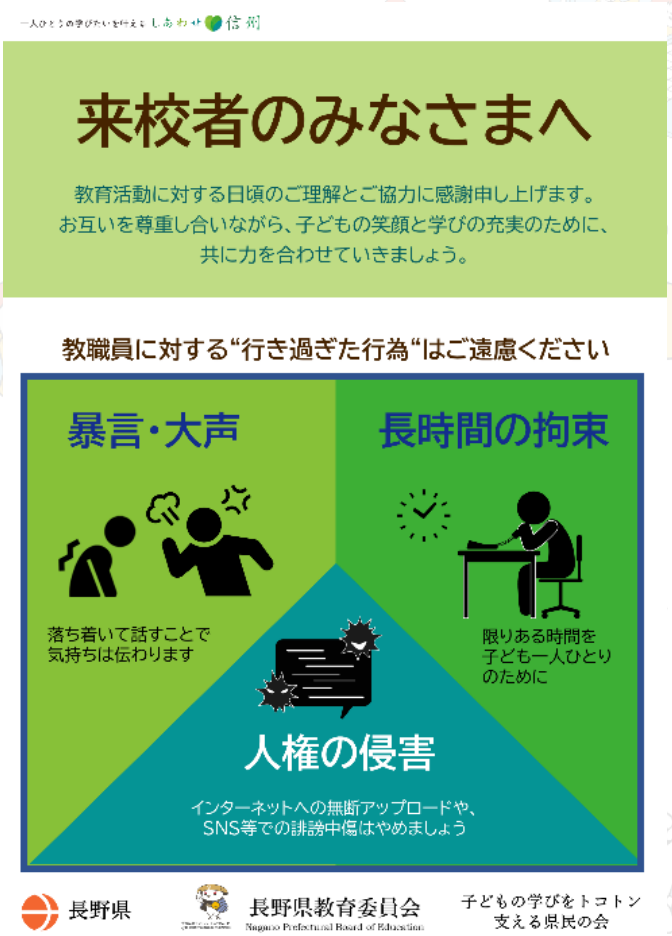
長野県下でこれだけ幅広い皆さんが同じ思いでいるということを、
広く県民に伝えるべき

一人ひとりの学びたいを叶えるため、先生が子どもと向き合えるよう応援します

（県教委のこれから）
この宣言から
各地で取組の
狼煙が上がるよう、
伴走支援に
取り組みます。

来年度も
この会を企画し、
子どもの学びを
みんなで支える
機運を更に
広げていきたい
と考えています。

共同宣言ポスターと来校者への呼びかけポスター



（左） 共同宣言

（右）“行き過ぎた行為”をご遠慮いただくための来校者への呼びかけ

それぞれポスターにして各学校に配布します。

県のHPからも自由にダウンロード、印刷してご利用いただけます。

会議の概要、ポスターの掲載はこちら
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku02/kenminnnokai.html

参加者の皆様からいただいたメッセージ

学校現場からの声

今までは「学校が頑張らなくちゃ」と思っていた。今回の話を聞いて、「地域が学校を支えてくれる」という雰囲気を感じた。ぜひ、具体的な活動につながってほしいと思った。（校長）

ニュースを見ていたら流れてきた。
いろんな方を巻き込んで学校を支えていこうとしてくれることが伝わってきて、嬉しかった。（教諭）

「来校者の皆様へ」のポスターは、疲弊した職員の防波堤の１つとなり、心強いと感じた（管理職・教諭から多数声あり）